

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	那智勝浦町立那智中学校	寺地 琢也
学校所在地		
(〒649-5331) 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町天満1693 Tel 0735(52)0072 fax 0735(52)0092		
担当者名		役職名・担当教科
石川 和彦		教諭・理科
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一つである那智山や勝浦温泉、近畿地方最大の近海・遠洋漁業の基地である勝浦港を抱え、観光業と水産業及び関連する商業が中心の町にあります。校区が広く自転車通学やバス通学の生徒もいます。生徒達は、挨拶・勉学・清掃をモットーとした落ち着いた学校生活で、生徒会活動や部活動にも力を注いでいます。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 1年生 48名	0名 職員 5名	教室・世界遺産センター・熊野古道
実践研究テーマ		
世界遺産について学び、私たちが生活する和歌山県にある世界遺産を体感する（地域学習）		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	私たちが生活する和歌山県にある世界遺産を体感しよう	
<p>〔キーワード〕 地域学習 世界遺産学習</p>		
<p>〔単元目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産を設定する理由について学び、保存の意義について考える ・世界遺産に認定する際の条件について知る ・私たちが生活する和歌山県にある世界遺産について学習する ・熊野の霊場と参詣道について体感し、自分たちの地域について考える 		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕 全体 10 時間 （「 地域学習・世界遺産学習・現地学習・事後学習まとめ 」 5 時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>和歌山県世界遺産センター：世界遺産講座、次世代育成事業（現地学習） 和歌山県世界遺産マスター：古道ウォークにてガイドをして頂いた。</p>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	事前学習①～⑤ 紀南地域について調べレポートにまとめる	県の資料を用い、紀南地域の歴史や文化などから自分が調べるテーマを決め、パソコンも使って調べてレポートにまとめる。	レポート ワークシート
2	世界遺産調べ⑥～⑧	ユネスコが設定する世界遺産について、その意義を考え、認定されている世界遺産について調べる。	レポート ワークシート
3	現地学習⑨ (世界遺産講座・古道ウォーク)	世界遺産センターの職員から、世界遺産の歴史や「紀伊山地の霊場と参詣道」の概要、世界遺産に登録された課程について講座を受ける。 世界遺産マスターの方々に説明をいただきながら、三軒茶屋跡から大斎原まで5班に分かれて歩き、体感する。	観察
4	事後学習⑩ レポートまとめ	現地で見聞きしたことを中心に考えたことや思ったことなどの感想とともにレポートにまとめる。	ワークシート
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>○成果</p> <p>紀南の地域学習を通して、自分達の住む町や和歌山県南部の地域について知る良い機会となった。世界遺産について調べ、実際に体験・体感することで、熊野古道の歴史や魅力を感じ、自分達の郷土について考えることができた。</p> <p>○課題</p> <p>現地で学んだことを生かし、今後自分たちが生活する当地方とどのように主体的に関わっていくのか。どのように世界遺産に携わっていくかなど、今後の学校生活や家庭との繋がりを考えさせる取り組みにつなげていく必要がある。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>世界遺産講座を聞かせて貰うことで、「紀伊山地の霊場と参詣道」の概要や世界遺産全般に関する知識を更に深めることが出来た。改めて、熊野の歴史や時代的背景、価値を理解することで、これまで守ってきた熊野古道を大切に引継いでいくことや、自分たちが生活する地域に対する気持ちが芽生えるきっかけになったと感じる。</p> <p>また、現地で実際に見聞きすることで、しっかりと体感し自発的に郷土に対して興味を持つことができた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>自分たちが生活する地域が有する世界遺産についての知識理解を深めた上で、文化面や経済面等、多角的に地元地域について考える機会を増やしていきたい。その後、キャリア教育とつなげ、自身の将来と地元地域について主体的に考え行動できる人材の育成を図りたい。</p>			

様式 2

現地学習の様子

世界遺産センターの館内にて世界遺産全般や「紀伊山地の霊場と参詣道」について講義をして頂き、知識を深めた。その後昼食を取り、道普請を行った。生徒達は袋に自分が持てる分の土を入れ、約500mの距離を3往復程度運んだ。大変さを口にしながらも、自分の活動が熊野古道の保全につながることを実感していた。積極的に何往復も繰り返す生徒も見られた。

最後に世界遺産マスターの方に案内して頂きながら、5つの班に分かれて古道ウォークを実施した。石碑や各地点で説明を受けながら、三軒茶屋跡から大斎原までを歩くことができた。自分たちが生活する地域が有する世界遺産を体感しながら、理解を深めることができた。また、その保全や文化の継承の必要性について考えるきっかけとなった。



生徒の感想より

- ・昔の人たちがどれだけ苦労して熊野古道を歩いていたのか、少しだけ身をもって知ることができました。
- ・小学校の時よりも詳しく教えてもらいました。「紀伊山地の霊場と参詣道」について知識が深くなりました。
- ・初めて熊野古道を歩き、とてもきれいだと感じた。道普請など、多くの人が頑張ってくれているからなのだろうなと思いました。
- ・海外の人も結構いて、世界遺産であることが実感できた。
- ・僕たちは一部しか歩いてはいないけれど、昔の人は全てを歩いていたのだと考えるとすごいことだと思う。次はもう少し長い距離に挑戦してみたい。
- ・世界遺産に関する講義で、写真などからどの世界遺産からも歴史の深さを感じられた。世界の文化遺産についてさらに知りたくなりました。
- ・道普請を行い、大変だったけれど役に立てたのであれば嬉しい。自分が生活する地域について、これからもできることをしていきたい。
- ・道普請は大変な作業でした。それだけみんなが熊野古道を大切に思っているんだなと感じました。
- ・土を運ぶのはしんどかったけれど、自分が運ぶことで他通る人が通りやすくなると思ったら、何だか嬉しくなりました。
- ・たまに行く大門坂とは違う雰囲気、ガイドの方がその場その場で説明してくれることは勉強になりました。
- ・何度もつまづきそうになったけれど、もう一度歩いてみたいと思う熊野古道だった。